

炭都の風景を切り撮る in 大牟田

～第2回ヒストリカルランドアート写真撮影会～

2008年9月20日(土)

大牟田市内、三池港周辺および宮原坑跡(特別公開)

写真撮影会参加者募集

【対象】大牟田に興味があり、本撮影会趣旨にて参加いただける方

【定員】20名(応募者多数の場合は先着順とします。)

【日程】2008年9月20日(土)9:30～17:00頃

【集合】大牟田市宮原坑跡前(大牟田市宮原町1-86)9:30

【参加費】無料(但し、集合場所まで及び当日の交通費・昼食費・宿泊費・機材費等は各自でご負担願います。)

【備考】カメラ等の撮影機材、昼食はご用意していませんので各自持参願います。

なお、本イベントのコンセプトについてはホームページの当該内容を参照ください。

<http://www.omuta-arao.net/>

■お申し込み・お問い合わせ先/お名前、ご住所、年齢、電話番号、メールアドレス、参加予定日を明記の上、下記のお申し込み先(炭鉱のまちファンクラブ永吉)までメールでお送りください。

E-mail:mnagayoshi@gmail.com(永吉) 問合せ:090-8624-1245(永吉携帯)

■申込締め切り/9月18日(木)

■ホームページ/<http://www.omuta-arao.net>

■表彰/優秀作品は11月2日(日)のシンポジウムで表彰されます。

※日程詳細やヒストリカルランドアートについての概説は裏面をご覧ください。

主催:NPO法人 大牟田・荒尾 炭鉱のまちファンクラブ <http://www.omuta-arao.net>

共催:熊本大学工学部地域風土計画研究室 <http://www.civil.kumamoto-u.ac.jp/red>

福岡大学工学部景観まちづくり研究室 <http://www.tec2.tl.fukuoka-u.ac.jp/%7Eetc/keikan/top%20page.htm>

※本イベントは財団法人トヨタ財団地域社会プログラムの助成を受けております。

◎日本の近代化を担った旧三池炭鉱

旧三池炭鉱

大牟田・荒尾

旧三池炭鉱は、日本の近代化と戦後復興を支え続けてきた国内最大級の炭鉱で、1997年に閉山しました。そして、大牟田・荒尾のまちは「炭都」として独自の風景を形成してきました。坑口の立坑櫓、石炭化学コンビナート、石炭積出のため、100年前に團琢磨の指揮の下に築かれた三池港と港倶楽部、それらの施設を半円状に結んだ三池鉄道、かつて広大に広がっていた社宅と温かい家族の風景、「昭和」の香りがただよう商店街…。閉山10年でこうした炭都の風景やまちの活気が失われていこうとしている今、もう一度「炭都」の風景を掘り出してみませんか？

「炭都の風景を切り撮る」の作品例



「君はいつから働いているの？」
「明治の半ばからダヨ」

(第1回撮影会の
出品作品より)



「被写体」



「炭仰心」

「ヒストリカルランドアート」とは、地域に根ざした歴史を想起させる、地物を使ったインスタレーションのことです。地域の歴史的風景を別の視点から写真として切り撮り、情報発信を意図するというもので、風景写真をそのまま撮るのではなく、草木や石などの地物を何かしら操作して面白い構図を得たり、意図的な撮影対象を作ったり、タイトルを工夫して新しい視点からとらえた作品に仕立てます。

【プログラム】

- 9:30 大牟田市宮原坑跡前集合（受付・説明会）
- 10:00～12:00 宮原坑内撮影会
- 13:00～16:30 大牟田市内で各自撮影してください。（自由行動）
- 17:00 大牟田・荒尾のまちファンクラブ事務所（大牟田市築町2-8大牟田カメラ2階）にて作品提出
解散

※本撮影会における作品の著作権は全てファンクラブに帰属します。著作権を譲渡されたくない方は別途ご相談ください。

【作品の提出方法】

当日、大牟田市ファンクラブ事務所
で直接提出いただくか、後日以下のメ
ールアドレスまでお送りください。

mnagayoshi@gmail.com（永吉）

なお、提出形態は電子データ、もしく
はフィルム等をお願いします。

シンポジウム みんなで考えよう！産業遺産の活かし方（仮）

2008年11月2日（日）13:00～17:00 旧三井港倶楽部

西村幸夫氏（東京大学教授・前ICOMOS副会長）・熊谷博子氏（映画監督「三池 終わらない炭鉱の物語」など）・鶴飼修氏（滋賀県立大准教授・炭鉱のまちファンクラブ）による対談のほか、ヒストリカルランドアート写真展示・表彰や大牟田を元気にするためのゲストからの提言、質疑応答などを予定しています。また、午前中には三池港周辺のガイドツアーを企画しています。